

## 椅子研究会 第3回 講演会

開催日 2009年11月21日(土)13時～18時

会場 長野県工業技術総合センター環境・情報技術部門大会議室  
「椅子・制作の現場」

講師 浜田 由一(はまだ よしかず) (滋賀県米原市在住、家具職人)

参加者数 31名

(報告者 谷進一郎)

講演はまず、浜田氏の自己紹介を兼ねた話から始まりました。

高校を卒業した時には、大工も考えたが、共同作業が苦手なので、個人でできるということで、家具制作の修業を始めたが、250人もいる家具工場で、別注部門に配属されて、7年間に和家具、洋家具、指物、建具などを憶えたそうです。

10人ほどの職人がいたが、修業は教えてもらうのではなく、耳で聞き、眼で見て憶えるやり方を身につけたそうで、浜田さんは現在、プロの木工家のための木工教室をしています。受講者がどのくらい力量か、最初に鉋を研いでもらい、その音を聞いて判断しているとのこと。

家具職人の修業は、7年間で作る方はすべてマスターしたので、その後はデザイン力を身につけたいと思い、デザイン事務所の試作担当としてさらに7年間仕事をしたそうです。

その仕事で、模型として1/5サイズのミニチュアを多数つくったが、終われば廃棄処分されてしまうので、約30年前からは、自分のライフワークとして、有名椅子のミニチュアを作ることを始めたそうです。

有名椅子のミニチュアは、正確に、かつ本物に見えるように、現在までに100脚ほど作ったとのことですが、接合部までに正確に作り出し、木目も1/5に見えるように細かいものを使うということや、布地や皮革等も柄や厚さなども考えなければいけないということなど、こだわり抜いた仕事を続けているので、売り物ではないけれども、価格を考えると現物のものよりも高価なこともあるということです。

今回も H・ウェグナーや K・クリント、F・ユールなどの名作椅子のミニチュアモデルを10点ほど持ってきていただき、じっくりと見せていただいたが、本当に素晴らしいものでした。

大阪で開催した最初の名作椅子のミニチュアの展示会をイス研究家の織田憲嗣さんが見て、評価してくれて、あらゆる資料を提供してくれましたし、デンマークで訪ねた H・ウェグナー本人とそのイスを作っているメーカーでも、このミニチュアをプレゼントして、仕事ぶりを認められたそうです。

浜田さんは椅子について学びたい人に、名作椅子のミニチュアだけでなくレプリカを作ることを勧めています。それはデザインの勉強だけでなく、曲げ木やホゾの作り方のポイント等を理解できて、「どのように作るか」の勉強にもなるとのこと。

近代の北欧の椅子は、「丸脚に平ほぞを馬乗りで組む」や「的確な面取り」など、量産を前提に考えた技術で作られているものが多い。

その一方で、椅子の部品を生木の状態から荒木取りをして乾燥させるなど、手をかけた取り組みもして、機械化と手作業を合理的に組み合わせていることがわかるということです。

浜田さんは、自分の工房では100ボルトで使える木工機を購入して作業しているが、「丸脚に平ほぞを馬乗りで組む」のも、簡単に作る方法を解説され、続いて、「ほぞに薬研をかます」=圧縮して筋を入れる)ことにより、接着剤の道をつくって、しっかりと接着する方法などを解説された。

これまでの日本の工房家具業界では、三相200ボルトの大型木工機を使うことが常識だったが、アメリカ製の単相100ボルトの木工機も進化しているので、その良さを再認識することを勧められた。

その他、浜田さんの工房でのプロ向きに開催された木工教室について、内容を説明された。

今回の話題も多岐に渡りましたが、今後も機会を作って、それぞれの話題について、より深い内容をお聞きしたいと思います。

第3回 講演会



浜田由一氏



ミニチュア椅子



接合部の構成



ミニチュア椅子



ミニチュア椅子



ミニチュア椅子